

婦人科よりお知らせ 女性活躍社会における婦人科医の役割

いつも子宮がんや卵巣がんの患者様、また子宮筋腫や子宮内膜症の患者様をご紹介いただきありがとうございます。前者には手術、化学療法、放射線療法などの集学的治療で、また後者には非侵襲的な腹腔鏡手術で対応させていただいています。おかげさまで毎年これらの件数が増加しており、やりがいを持って働かせていただいています。今回は就労支援という立場から婦人科医の役割につき紹介させていただきます。

令和という新しい時代が始まり、益々女性活躍社会が期待されています。実際、就労人口の約40%が女性と報告がされています。しかし就労期の女性は荒波に漕ぎ出た小舟のように、激しいホルモンの波の中で漂っている状態であり、その影響で過酷な労働環境のもとにいると理解しなければなりません。そのためAbsenteeism(病欠)やPresenteeism(出社しているにもかかわらず、心身の状態の悪さから生産性がなかなか上がらない状態)の女性は少なくありません。実際月経不順のためPresenteeismをきたしている女性が約13%存在し、その経済的な損失が5000億円を超えたとの試算がされています。女性活躍社会ではこれらの女性に対する対策が強く望まれます。これらの状態を引き起こす病態として月経前症候群(PMS)、子宮筋腫や子宮内膜症による過多月経や月経困難症、そして更年期障害などがあげられます。なおPMSとはあまり認知されていない病気ですが、これは月経前の1週~10日位前から月経開始までに出現する、腹部膨満感、肩こり、頭痛、悪心、嘔吐といった身体的症状と、イライラ感、怒りや無気力、集中力の低下といった精神的症状を引き起こ

す症候群で、20歳から閉経までの1~10%の婦人におくとされています。PMSの原因として女性ホルモンの激しい変化が推察されていますので、それを穏やかにする卵胞ホルモン・黄体ホルモン配合薬、いわゆるピル(OC)が第一選択薬と考えられています。精神症状が強い場合には精神安定剤や選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI)も用いられます。過多月経や月経困難症には、月経を止めるために従来よく用いられていたGnRHアゴニストはむしろ低エストロゲン状態を引き起こし、集中力の低下をきたすため、用いられることが少なくなりOCの長期持続投与が新しい治療法として注目されています。従来の投与方法では毎月月経が起こっていましたが、最長120日間持続投与することで月経が3~4か月に1回と少なく、それにともない不快な症状が減少します。そのほか黄体ホルモン剤をしみこませたりリングを子宮内に挿入するとの治療もあります。これは1回の挿入で5年間有効とされています。更年期障害は女性のキャリアアップの時期に大きな妨げになっていますが、女性ホルモン剤や漢方薬が非常に有効です。

この様に女性の就労を助ける新しい治療が次々と導入されています。我慢しながら働く時代は去りました。

女性活躍社会を守るのも婦人科医の大きな役割です。

婦人科のがんで悩んでおられる患者様とともに、このような症状を持つご婦人をご紹介いただければ深甚です。

特別顧問〈婦人科〉 梅 咲 直 彦

病院の理念



1. 患者さんの視点に立った安心・安全な医療の実践に務めます。
2. 患者さんに最適な医療を提供できるように努めます。
3. 新しいことにもチャレンジし、医療の質の向上に努めます。
4. 思いやりのある医療人の育成に努めます。

新任医師のご紹介

腫瘍内科 部長 津谷 あす香



静岡がんセンター、大阪市立総合医療センター、近畿大学を経て4月より腫瘍内科に着任致しました。当科では肉腫を含む固形がんの診断から臨床試験・治験、緩和治療まで幅広く診療を行っております。がん治療はここ数年で、免疫チェックポイント阻害剤の導入やがんゲノム医療の臨床導入など、ドラマチックに変化しております。最先端の治療に取り組み、地域のがん診療に貢献、牽引出来る医療を行うべく尽力して参ります。患者さんのニーズに合ったきめ細やかな診療が出来る様心がけておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

外科 医長 三浦 光太郎



4月より着任致しました。消化器外科をはじめ、一般外科・乳腺・内分泌疾患の外科診療と研究に従事して参りました。当科の対象疾患は多岐にわたり、治療も進歩した半面、複雑になっています。そこで、当科では、一人の患者様に対して複数の外科医、および他の診療科の医師やメディカルスタッフがチームとして連携し、多角的に日々の診療を行っております。様々な不安を持って受診される患者様に納得して頂ける、質の高い医療を提供できるように、チーム一丸で頑張りますので宜しくお願い致します。

外科 高橋 諒



今年度、和泉市立総合医療センター外科に入職いたしました卒業4年目外科専攻医の高橋 諒と申します。初期臨床研修医として大阪市立大学病院にて、先生方の多くのご指導の下勉強させていただき、外科医を志すに至りました。その際定型化された無駄のない手術に感銘を受け、強く憧れるようになりました。私は決して器用な人間ではなく、外科医を志したことを後悔する時もあります。しかし、それでも日々地道に精進し、自身が憧れた外科医になれるよう経験を積んでいきたいと思っております。至らない点もあるかと存じますが、御指導御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

皮膚科 渡邊 美樹



4月より皮膚科常勤となりました渡邊美樹と申します。大手前病院で初期研修後、大阪市立大学皮膚科に入局し、大学病院で1年間勤務しこの度異動して参りました。趣味は食べることと旅行で、和泉市の美味しいお店を開拓しようと楽しみにしております。皮膚科医としてまだ経験が浅く、これから多くの症例を経験していきたいと考えております。少しでもお役に立てるよう精進して参りますので、よろしくお願い致します。

脳神経外科 長束 一紘



はじめまして。今年度4月より脳神経外科に着任いたしました長束一紘と申します。平成24年に近畿大学医学部を卒業、以降近畿大学医学部附属病院にて研修、脳神経外科医としての診療に従事して参りました。脳神経外科は、脳卒中はもちろんのことですが脳腫瘍、水頭症をはじめとした機能的疾患など多岐にわたる疾患の診療を行っております。より多くの患者さんに適切な医療が提供できるよう尽力したいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

血液内科 三宅 義昭



4月より血液内科に着任致しました三宅義昭と申します。昨年度までは近畿大学病院血液内科で勤務しておりました。血液疾患は難解なものが多く、病気のすべてを理解することは容易ではありません。病気とうまく向き合えるように、そして安心して治療を受けていただけるように丁寧な診療を心がけています。みなさまの住み慣れた地域で、質の高い血液診療が提供できるように日々精進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

呼吸器外科 医長 下治 正樹



4月より呼吸器外科に着任致しました下治正樹と申します。平成18年に近畿大学を卒業し、近畿大学附属病院で初期研修を経て、静岡県立静岡がんセンター、静岡県立総合病院、近畿大学附属病院で呼吸器外科の診療と研究に従事してきました。当科では肺癌のみならず、気胸や膿胸といった良性疾患や縦隔腫瘍に対する外科的治療を行っております。さらに肺癌では腫瘍内科や放射線科と連携し、より質の高い医療を地域の方々へ提供できるよう邁進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

7月休診のお知らせ

循環器内科

27日(土) 土井 淳史 医師 休診

乳腺外科

11日(木)・12日(金)

31日(水) 手塚 健志 医師 休診

消化器内科

20日(土) 消化器内科 休診

皮膚科

16日(火) 渡邊 美樹 医師 休診

呼吸器内科

3日(水)・31日(水) 松下 晴彦 医師 休診

精神科

10日(水) 原田 朋子 医師 休診

12日(金) 播磨 祐治 医師 休診

眼科

19日(金) 二出川 弘樹 医師 休診

20日(土) 眼科 休診

小児科

31日(水) 村上 城子 医師 休診

腫瘍内科

5日(金)・19日(金)

福岡 正博 医師 休診

11日(木) 津谷 あす香 医師 休診

12日(金) 大田 隆代 医師 休診

19日(金) 米阪 仁雄 医師 休診

泌尿器科

29日(月) 西岡 伯 医師 休診

林 泰司 医師 休診

担当医代診

31日(金) 西岡 伯 医師 休診